

った。

アイソトープは通常セレンナチオンを $300\mu\text{Ci}$ 使用している。

他の諸検査の成績を参照することはもちろん大切である。読影力については以前に比べると大部進歩したと考えているが手術所見等につきあわせてこれの向上を計ることが大切で開腹した症例のうち数例のスキャン像でどう読影したか述べる。

膵疾患はその種類，部位によってスキャン像が異なるのでそれをよく理解する必要がある。

膵頭部癌において膵頭の欠損だけでなく膵臓が全く描記されないことがありこの点で膵炎との鑑別ができないことがある。

体部癌は欠損像が大部分であるがわれわれはスキャン像で体部癌と診断して開腹し膵臓に何の異常をみなかった数例の false positive の経験がある。

尾部癌は症例数が少ないが欠損，変形が大部分である。

われわれの唯一の false negative 例はスキャンで頭部体部，尾部と比較的きれいに描記されていたが開腹すると膵頭部の鳩卵大の癌であった。

*

9. シンチ・カメラによる経時的膵機能動態診断の意義

平木辰之助<放射線科>

久田欣一<核医学科>

(金沢大学)

われわれは1965年12月より現在まで81症例についてMUHCを用いて膵等感度スキスキャンを試みてきた。さらに1967年10月よりPho/Gamma III シンチ・カメラを用いて経時的に膵イメージを短時間に反覆して観察してきた。その結果従来の1回だけの膵スキャンと比較するとつぎの点でシンチカメラによる膵機能動態撮像法の方がはるかに優れていることを知った。

1) ^{75}Se セレンメチオン ($2\mu\text{Ci}/\text{kg}\cdot\text{体重}$) 静注0~4分後で肝より膵の方がRI集積量が多いか否かを判別できる。

2) 膵形態が勾玉型より逆S字型に変形し一種の蠕動運動を示す状態も観察できる。

3) 5° 仰角臥位膵撮像法により肝左葉や腎と膵との重なりが少なくなり膵形態を鮮明に描出できる。

4) 立位と臥位における膵形態の可動性と変形の程度から膵周辺，特に後腹膜におよぶ病変有無を推定でき肝

と膵との相対的な位置の変化から肝病変の有無と膵との関係も間接的に推定することが可能である。

*

10. Scintiscamera の臨床的応用

—第2報 膵疾患への応用—

金 孟和 津屋 旭

(癌研究会 附属病院)

第7回日本核医学総会にて、津屋等は scintiscamera の膵疾患への応用と題して、phantom 実験による分解能の検討 scintiscamera の利点、膵描出最適時間、障害陰影による読影上の注意等基り的な事項について発表した。昨年9月私達の病院に Nuclear Chicago 製の Anger 型 scintiscamera が設備され、今日まで約100例に及ぶ膵 scintiscamera 応用例について検討した。その内訳は膵癌9例、膵炎2例、胃切除膵頭十二指腸切除術の合併手術例4例で、これ等を除外した。臨床膵に異常はないと認められる85例である。今読影全体の描出よく障害陰影、肝臓との overlapping も乏しく、診断に充分耐えうるものをA、膵影の描出程度がやや淡いかまたは部分的にしか診断しえないものをB、判定不能と思われるものをCとすれば85例の検討で、A 75%、B 20%、C 2%で false negative 例が2例あった。胃切と膵頭十二指腸切除術の合併手術例では膵描出は不能であった。膵癌症例の scintiscamera pattern および手術または剖検によって確定診断を下しえた症例を例示すると、症例(1)は Incisura 領域に陰影欠損があり、膵頭部陰影は濃厚であるが体尾部は淡く、Incisuraに $3 \times 3\text{cm}$ 大の腫瘍がありその前面に鷲卵大の Zyste を形成しており、体尾部の淡い陰影に一致して Zirrhose が著明であった。症例(2)は尾部の限局性欠損がありそれに府応して鷲卵大の膵癌であった。症例(3)は Ingisura から体部の限局性の欠損像が見られ、また photoscan を Sadattier 効果を利用して color に変換した像であるが大体同様の情報がえられ手術した結果手拳大の腫瘍が認められた。症例(6,7)は膵描出不能で手術によって膵上縁に沿って skirrhös なかたい Tumor があり他の例は膵頭部から体部にかけて鳩卵大の膵癌のあった症例である。症例(4)は腹腔動脈上腸間膜動脈に異常はなく scintiscamear で幅の広い帯状のまだらな pattern を示した。この症例に腹腔動脈造影法、施行時 ^{131}I MAA を造影剤とともに注入してえた angio-scanography で Tumor に一致して positive Schatten をえた症例である。手術により小児頭大髄様で一